

## 「与論島の活性化のために」

鹿児島大学工学部機械工学科 2年 田原 知佳

与論島では過去、現在どのような問題が起きているのか。今後どのように改善すべきだろうか。どのような未来を創造していくのか。今回集中講義で与論島を訪れ、島の人々の話を聞く中で、切実に与論島の未来を良く変えていきたいという島の人たちの熱い思いを感じた。本レポートでは島の活性化のために島の問題を指摘した後に、具体的な解決方法を提案していく。一つの解決方法だということを知って少しでも与論島の活性化につながることを願う。

与論島の大きな問題として大まかに挙げると、内的ものと外的ものと二つある。すなわち、島の人口の減少による問題・島の環境問題と、観光客数の変動による経済問題とである。

まず、島の人口の減少による問題・島の環境問題について考えていく。根本的に人口が減る原因は、少子高齢社会による日本人口の減少と、人口減少により自治体としての機能を果たせなくなったことによる都市部への人口流出による。それによって起こる問題は、農業、林業、畜産、水産における過疎化、与論島の経済悪化の悪循環である。しかし人口が増えたらよいというわけではない。なぜなら資源は有限であり、さらに天候などにより安定して収穫資源が得られるわけでもないので、均衡のとれた人口を目指さなければならない。また、島の資源をとおして、生産して消費者に売り出すことを考えた場合、現在は主にサトウキビ、子牛、魚を売り出しているわけだが、島の面積と地形環境とを考えると林業と農業、畜産（飼料がないため）で栄えることはとても困難を極める。だが、唯一である水産漁業は魚の保冷方法を変えたことにより売り上げが伸びてきていて、これは良い傾向だと言える。

さらに、観光客数の変動による経済問題について考える。夏季観光シーズンの経済効果はとても大きい。観光客は、宿泊、食事、お土産、観光に様々にお金を落としていく。海がきれいな百合ヶ浜を筆頭にして海外にも目を向けてニーズに合った宣伝を広めていく必要がある。また観光をしやすくするため、国道や宿泊設備、観光向け施設開拓を広げ、移動運賃を安くするだけでなく、マイルを貯めやすくする特典を付けるなど、人が何度も行きたくなるような環境づくりに見通しを立てなければならない。だが島の財源は厳しいため、新しい視点で解決することが必要になってくる。

この大きい二つ問題を踏まえ私が考えた具体的な解決方法は、水産の研究企業を通して漁業の地元企業を興す方法である。これは、与論島ならではの、与論島ではない雇用口を島で増やすことで、島の人口の底上げを狙い、島で暮らす人々が安定した収入で暮らすことによって、暮らしやすい街として観光

業界でも経済効果上昇を狙っていく。すなわち、水産業界における新しい改革である。具体的には、漁業で最新技術を積極的に取り入れることで、水産業界での新しい研究対象となり、より効率的かつ利潤的に地元企業が開発されていく。漁業での最新技術とは一体何なのか。また、与論島ならでは、与論島ではない、積極的に取り入れるべき理由について考える。また、それに対する財源確保についても考えていく。

結論からすると、与論島ではない対象理由と財源確保については、暮らしている島の人々もしくは島の研究者が良く分かっていることなので、そのような方々が積極的に考えるべき必須事項ではあるが、私からは考え方を概念的に大まかに提案するので、本レポートを読む方は同じようによく考え確認しながら読んで欲しい。

一つ採捕効率上昇のための機材研究、二つ採れた魚の保存方法の研究、三つ海産物のブランドを高める研究、四つ利潤追求された売り出し口の開拓の、主に四つの方法が挙げられる。一つ目は、奄美半島でよく採れているソデイカを最重要項目として採捕効率も上げる機材を研究する。すなわち採捕方法にIT化を取り入れ、若者が開発し、既成の方に採捕方法を教えてもらう形態を取ればよい。二つ目は、取れた魚の保存方法についてだが、すでに研究が進んでいる保冷方法でさらに追及して採れた瞬間の状態に保存できる方法を探ればよい。また、魚を保冷し遠くの地域に売り出すより加工してからの方が良い状態を得られるのであれば加工場の開拓も必要である。三つ目は、栽培、養殖業で、生態系を壊さずに魚をより大きく、質の良い魚が生まれるようにまた与論島ならではの美味しい魚として挙げられる対象を研究すればよい。四つ目は、採れた魚をより高く買ってもらえる場所に売り出すということだ。魚が採れ過ぎてしまった時に、地元で消費するのではなく他の遠いところまで売り出し、換金することが重要だ。

財源確保については、島の人々の協力なしには行うことができない。魚の環境づくりを作るためボランティアで海の清掃活動を行い、水産業界でのより良い街づくりのためのワークショップを行うなど、特に若者の関心を集めるような活動を行う必要がある。また、多くの若者が島に来て残ってもらうために若者が暮らしやすくまた安心して暮らせるような環境づくりも必要だ。設備投資では良い時に大きく投資することも大事だが、どこに時間とお金、アイデアを投資すべき確認しながら慎重かつ大胆に進める必要がある。